

3 きょうどを開く

(1) 郷戸原の開たく



▲入山堤



▲中ノ川からのトンネル

郷戸原は柳津で一番広く平らな土地です。今から50年ほど前までは、高い所に水田を開くことができず、畑ばかりで、お米をつくって豊かにくらしたいという村の人びとの願いをどうすることもできませんでした。



▲トンネル工事

昭和7年、坂下町の酒井辰太郎氏は、村人のこの様子を知って、西山地区からの水の利用を

考え、計画を立てて村々に相談したり、何度も県庁にお願いしたりしました。この酒井氏の熱

心さは人びとを動かし、昭和13年ついに工事に取りかかることになりました。

当時は、日中戦争・太平洋戦争の最中でした。また山や谷が多く、つるはしやスコップによる工事で、道具や労働力は十分でないなかで、昭和25年6月、ついに工事は完成しました。

西山地区の東川の水源地から長さが5438メートル、そのほとんどが